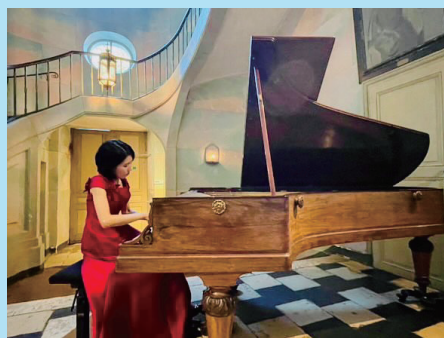


# 第5回ノアンフェスティバルショパンインジャパンピアノコンクールショパンナイト賞 黒住友香さん 受賞者体験レポート～ノアンフェスティバルショパン 2025年10月編～

ショパンにとって大切な場所だった、ジョルジュ・サンドの館で演奏をするという、夢のような機会を与えてくださいました、イヴ・アンリ先生を始めベヒシュタイン・ジャパンの皆様にご心より御礼申し上げます。

当初ショパンの命日に予定されていたコンサートは、直前に日程が1日前倒しになり、プログラムを考え直す必要があったりと、様々なハプニングもありましたが、それも含めて今後の糧となる素晴らしい経験となりました。



プログラムはショパンのマズルカ Op.30、舟歌、ソナタ第3番を演奏させていただきました。同じコンサートで出演予定だったポーランドの歌手の方が体調不良でキャンセルと聞いたのはコンサート前日。日本から同行してくれていたデュオのパートナーであるチェリスト神倉辰侑さんがいたこともあり、アンリ先生からピアノとチェロのデュオコンサートにしないかと驚きのご提案を頂きました。日本からチェロを持って行っていなかったのですが、現地に偶然にもアンリ先生の息子さんが20年以上前に使っていたものがありました。

ピアノソロでショパンを、チェロソロでバッハを、そして最後にデュオでメンデルスゾーンの無言歌を演奏しました。

当日のピアノは、ショパン時代のプレイエル。本当に繊細な楽器で、チェロも長い間使われていなかったためいつ弦が切れてもおかしくない状態。それでもどちらも素晴らしい楽器で、あの寒さの中コントロールするのは至難の業でした。



私たちも、そしてお客様も、心と耳を研ぎ澄ませて、かすかな機微を感じようとしていました。現代では、そして日本では感じられないような経験でした。演奏を終えた後に、勇気を振り絞って、丸暗記した拙いフランス語でスピーチをしました。詰まりながらもお客様に助けをもらいながら、最後まで話すことができました。「また来年も来てね」と声を掛けてもらえて、何とか想いを伝えられたんだと嬉しかったです。

ショパンとジョルジュ・サンドが生きたサンドの館でプレイエルを弾けることだけでも奇跡なのに... そんな特別な場所で、ソロだけでなく当時のピアノとチェロのデュオまで演奏できたことは今でも信じられないような幸せなことでした。

ショパンの命日を偲ぶコンサートとして、私たちにとって一生忘れられない特別な演奏会となりました。

またもう一度、ノアンを訪れて演奏会をすることが今の私の夢です。ノアンで出会った素敵な方々に再会できる日を楽しみに、これからもピアノとショパンに向き合い続けます。



第6回ノアンコンクール予選 2026年12月中旬締切、  
本選は2027年4月23日～25日開催予定。  
お問合せ: [competition@bechstein.co.jp](mailto:competition@bechstein.co.jp)

nohant  
FESTIVAL  
Chopin  
Un romantisme nature

C. BECHSTEIN  
JAPAN